

第5節 テレワークをするための環境整備に関する課題について

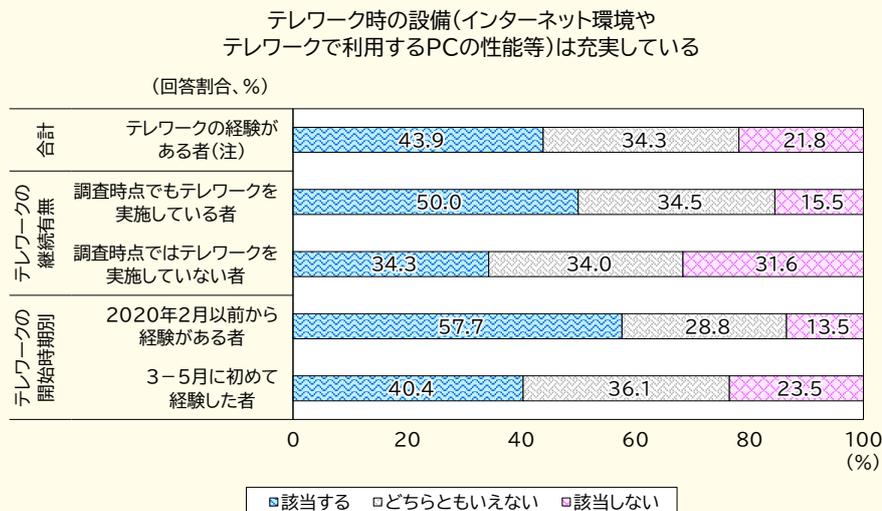
- テレワーク時の設備が充実することが仕事の生産性・効率性を高め、結果としてワーク・ライフ・バランスにも良い影響を与える可能性や、ワーク・ライフ・バランスの充実を通じて仕事の充実感・満足感に良い影響を与える可能性も考えられる

最後に、第5節では、第3節でみたもう一つの課題である「テレワークをするための環境整備」に関する課題について分析する。この分析では、テレワーク時の設備が整っているかについて尋ねた「テレワーク時の設備（インターネット環境やテレワークで利用するPCの性能等）は充実している」という項目（テレワーク時の設備の充実度）について分析をしていく。

まず、テレワーク時の設備の充実度についての現状をみる。第2-(2)-29図により、テレワークの経験がある労働者が、「テレワーク時の設備は充実している」という設問に該当すると回答した割合をみると、43.9%となっている。これをテレワークの継続状況別にみると、調査時点でもテレワークを実施している者の方が、テレワークを実施していない者よりも該当すると回答する者の割合が高くなっている。また、テレワークの開始時期別でみると、2020年2月以前から経験がある者の方が、3-5月に初めて経験した者よりも該当すると回答する者の割合が高くなっている。このことから、感染拡大前からテレワークを実施してきた労働者の勤める企業では、テレワークの活用を続ける中で、労働者が自宅でテレワークを行う際のインターネット環境やICTの設備を充実させることなどを通じて、テレワーク環境の整備に取り組んできたことがうかがえる。

第2-(2)-29図 テレワークでの業務における環境整備の状況（労働者）

- テレワークを実施する際の環境整備の状況について、「テレワーク時の設備は充実している」に該当するか尋ねたところ、テレワークの経験がある者全体では43.9%となっている。
- テレワークの継続状況別にみると、調査時点でもテレワークを実施している者の方が、テレワークを実施していない者よりも該当する割合が高い。
- テレワークの開始時期別でみると、2020年2月以前から経験がある者の方が、3-5月に初めて経験した者よりも該当する割合が高い。



資料出所 (独) 労働政策研究・研修機構「新型コロナウイルス感染拡大の仕事や生活への影響に関する調査 (JILPT第3回)」(2020年)をもとに厚生労働省政策統括官付政策統括室にて独自集計

(注) 「テレワークの経験がある者」の割合は、「2020年2月以前から経験がある者」「3-5月に初めて経験した者」「6月以降に経験した者」の合計から算出。

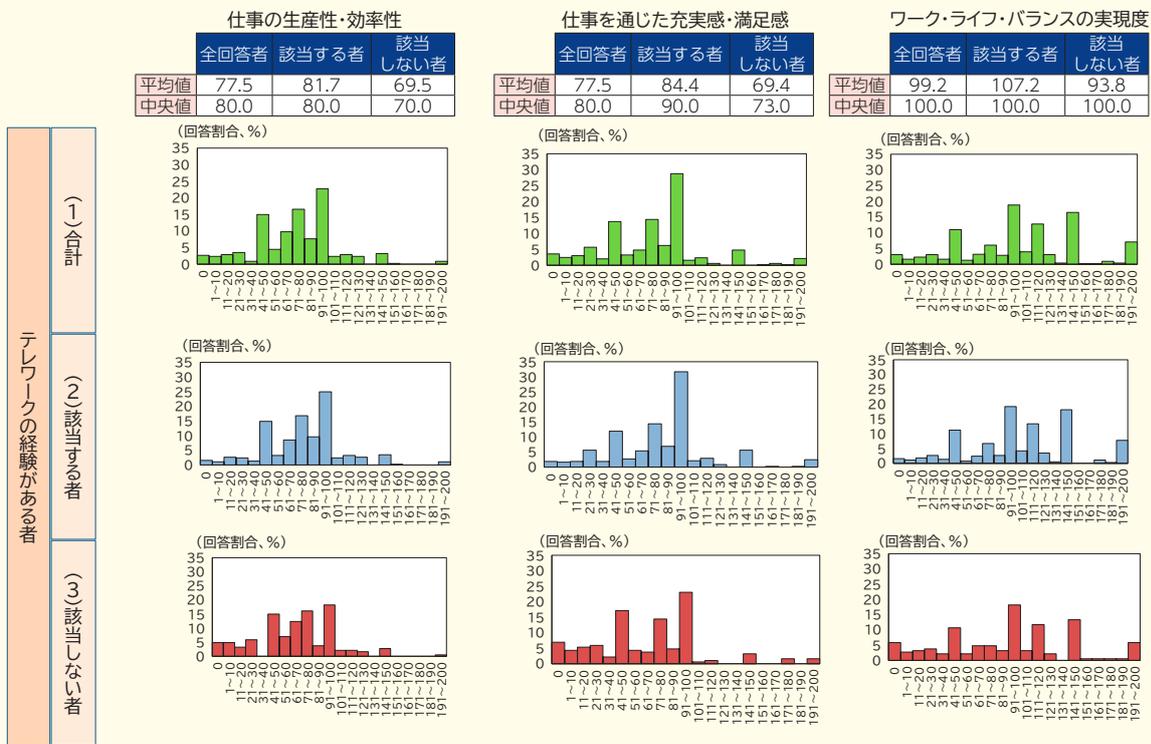
続いて、第2-(2)-30図は、テレワーク時の設備の充実度に関する設問に該当する者と該当しない者に分けて、「仕事の生産性・効率性」「仕事を通じた充実感・満足感」「ワーク・ライフ・バランスの実現度」の指標のスコアの分布を示したものである。前節では、仕事の進め方がより直接的に影響すると考えられる「仕事の生産性・効率性」「仕事を通じた充実感・満足感」を指標として用いたが、在宅勤務の場合、日常生活を行う場で仕事を行うこととなるため、テレワーク時の仕事の環境が、ワーク・ライフ・バランスにも大きく影響しうるものと考えられる。そのため、ここでは、「ワーク・ライフ・バランスの実現度」との関係についてもみている。これをみると、「テレワーク時の設備は充実している」に該当する者は、そうでない者よりも、「仕事の生産性・効率性」「仕事を通じた充実感・満足感」ともに平均値、中央値がいずれも高くなっている。これにより、テレワーク時の設備を充実させることで、テレワーク時の「生産性・効率性」や「充実感・満足感」の低下幅を抑えることができる可能性があると考えられる。また、「ワーク・ライフ・バランスの実現度」についても、該当する者はそうでない者よりもスコアの平均値が高く、100を上回っている。このことから、テレワーク時の設備を充実させることで、オフィスで働く場合と比較してワーク・ライフ・バランスを向上させることができる可能性があると考えられる。

これらの結果を合わせてみると、テレワーク時の設備が充実することが仕事の生産性・効率性を高め、結果としてワーク・ライフ・バランスにも良い影響を与える可能性や、ワーク・ライフ・バランスの充実を通じて仕事の充実感・満足感に良い影響を与える可能性も考えられる。

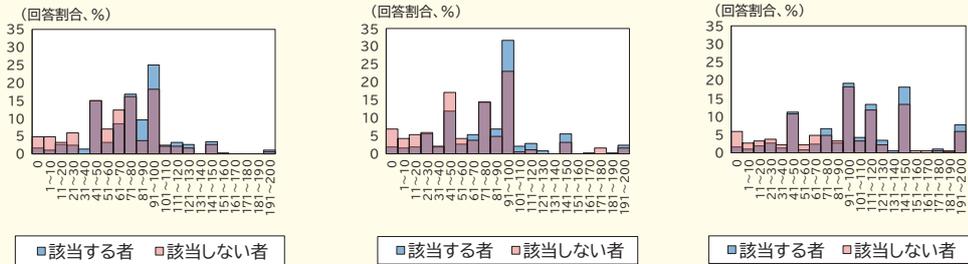
第2-(2)-30図① テレワークでの業務における環境整備と生産性や満足度等の関係 (労働者)

○ テレワークを実施する際の環境整備の状況による仕事の「生産性・効率性」「充実感・満足感」「ワーク・ライフ・バランスの実現度」の指標の違いをみると、「テレワーク時の設備は充実している」に該当すると回答した者は、そうでない者よりも、「生産性・効率性」「充実感・満足感」ともに、平均値、中央値がいずれも高い。また、「ワーク・ライフ・バランスの実現度」は、中央値は変わらないものの、平均値は高い。

テレワーク時の設備(インターネット環境やテレワークで利用するPCの性能等)は充実している



(4)(上図の中段・下段のグラフの差異をみるために、両グラフを重ねて表示したもの)



資料出所 (独) 労働政策研究・研修機構「新型コロナウイルス感染拡大の仕事や生活への影響に関する調査 (JILPT第3回)」(2020年)をもとに厚生労働省政策統括官付政策統括室にて独自集計

(注) 各図の数値については、オフィスで働く場合を100として、テレワークを実施することによる主観的な変化を0~200の範囲で答えた数値の回答割合を示している。

ここで、上記の分析について、仕事の進め方に関する重回帰分析と同様、テレワークの継続、「仕事の生産性・効率性」「仕事を通じた充実感・満足感」又は「ワーク・ライフ・バランスの実現度」を被説明変数とし、テレワーク時の設備が充実しているかどうかを説明変数として重回帰分析を行った結果をみてみる。それによると、テレワーク時の設備が充実している場合にテレワークの継続がされやすい傾向にあることや、「仕事を通じた充実感・満足感」や「ワーク・ライフ・バランス」の指標が低下しにくい傾向にあることが示されている。この結果についても、テレワーク時の設備の充実度と、テレワークの継続、充実感・満足感やワーク・ライフ・バランスとの因果関係を示すものではないが、テレワーク時の設備の充実度が、

テレワークの継続、充実感・満足感やワーク・ライフ・バランスにプラスの影響を及ぼす可能性が示唆されている。

第2-(2)-30図② テレワークでの業務における環境整備と生産性や満足度等の関係(労働者)

○ 重回帰分析の結果をみると、「テレワーク時の設備は充実している」に当てはまる場合にテレワークが継続している傾向にあることや、仕事の充実感・満足感の大幅な低下が起きにくくなっている傾向がみられる。また、ワーク・ライフ・バランスが悪化しにくい傾向にあることが示されている。

(重回帰分析結果)

テレワーク時の設備の充実度とテレワークの継続、生産性や満足度、ワーク・ライフ・バランスの関係

| 被説明変数 | 2020年4～5月の緊急事態宣言解除後のテレワークの継続の有無(1:継続、0:非継続) | | テレワーク時の生産性・効率性が大幅に低下しているか(1:大幅に低下=50以下、0:大幅に低下していない=50超) | | テレワーク時の仕事の満足度が大幅に低下しているか(1:大幅に低下=50以下、0:大幅に低下していない=50超) | | テレワーク時のワーク・ライフ・バランスが大幅に悪化しているか(1:大幅に悪化=70以下、0:大幅に悪化していない=70超) | |
|---------|---|-------------------|--|-------------------|---|-------------------|---|-------------------|
| | テレワーク時の設備が充実している | テレワーク時の設備が充実していない | テレワーク時の設備が充実している | テレワーク時の設備が充実していない | テレワーク時の設備が充実している | テレワーク時の設備が充実していない | テレワーク時の設備が充実している | テレワーク時の設備が充実していない |
| 回帰係数 | 0.539** | -0.689*** | -0.247 | 0.138 | -0.575** | 0.317 | -0.570** | 0.209 |
| 標準誤差 | 0.185 | 0.194 | 0.195 | 0.2 | 0.188 | 0.191 | 0.199 | 0.2 |
| サンプルサイズ | 857 | 857 | 857 | 857 | 857 | 857 | 857 | 857 |

***:0.1%水準で有意、**:1%水準で有意、*:5%水準で有意

資料出所 (独)労働政策研究・研修機構「新型コロナウイルス感染拡大の働きや生活への影響に関する調査(JILPT第3回)」(2020年)をもとに厚生労働省政策統括官付政策統括室にて独自集計

(注) 1) 重回帰分析(上図)における被説明変数及び説明変数は以下のとおり。

被説明変数:

- ①緊急事態宣言後のテレワークの継続(1:継続、0:非継続)
- ②テレワークの際の仕事の生産性・効率性が大幅に低下しているか(1:大幅に低下=50以下、0:大幅に低下していない=50超)
- ③テレワークの際の仕事の充実感・満足感が大幅に低下しているか(1:大幅に低下=50以下、0:大幅に低下していない=50超)
- ④テレワークの際のワーク・ライフ・バランスの実現度が大幅に低下しているか(1:大幅に低下=70以下、0:大幅に低下していない=70超)

※②③の閾値を50、④の閾値を70としているのは、第2-(2)-30図①より、テレワークによる「仕事の生産性・効率性」「仕事を通じた充実感・満足感」の指標の平均値が77.5であるのに対し、「ワーク・ライフ・バランスの実現度」の指標の平均値は99.2となっており、それぞれの指標の数値の水準が異なっているため。

説明変数:

テレワーク時の設備が充実している(1:当てはまる+どちらかという当てはまる、0:それ以外)/充実していない(1:当てはまらない+どちらかという当てはまらない、0:それ以外)

2) 重回帰分析(上下図)は、説明変数として上記以外に性別、年齢、就業形態、業種、職種等をコントロール変数として加えている。詳細な重回帰分析の結果は厚生労働省HPを参照。